

国内外の消費者PR

積極的に食育活動実施

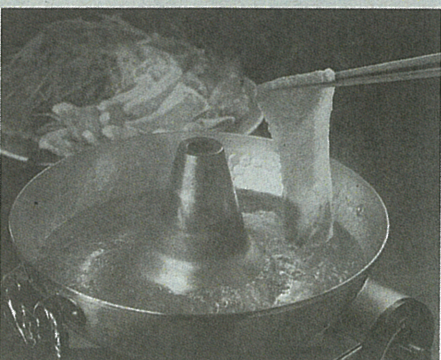
「TOKYO X-Association」

「TOKYO X」「ふすま」やマメ科牧草は、「東京SABAQ」の「アルファルファ」という四つの飼育理念12・5%配合。豚の消化「Safety(安全管理活性化を促して健康に性)」「Biologic(生命力学)」「Animal welfare(動物福祉)」「Quality(品質)」の精飼料米を15%配合することにより、一価不飽和脂肪酸のオレイン酸が増える試みも行われている。

現在は東京都をはじめ、茨城、宮城、山梨、群馬の1都4県で生産を行い、指定販売店(TOKYO X-Association)で、セミナーなどを通じて積極的に情報を発信

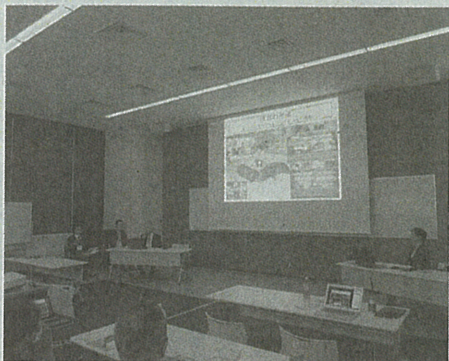
KYO X-Association(認定店)でのみ販売される。 TOKYO Xの流通販売組織であるTOKYO X-Association(石井高洋会長)では、都内の小中学校や市民イベントなどで積極的に食育活動を実施。

消費者に向けて食育を推進して「アニマルウェルフェア」なども含め、物産展などでも積極的に開催している。また、現在は新型コロナウイルスの影響でイベントなどには加勢企業である京王プラザホテルの市川博史総料理長がフランス政府から「農事功労章」を受章。同社はTOKYO X-Associationの理事を務めており、今後もTOKYO Xの魅力をオンラインなどでも含めた、さまざまなツールで訴求していく。



TOKYO Xのしゃぶしゃぶ

「TOKYO X」の飼育理念は「Safety(安全管理活性化を促して健康に性)」「Biologic(生命力学)」「Animal welfare(動物福祉)」「Quality(品質)」の精飼料米を15%配合することにより、一価不飽和脂肪酸のオレイン酸が増える試みも行われている。



さらに2年前に①認定店舗の連携②インバウンド対応③一般消費者への認知といった課題に向けて、公式サイトを開設。 昨年は日本中を熱狂の渦に包み込んだラグビーワールドカップのパブリックビューイング会場付近で多くの人が集まる中、TOKYO Xをは